

議会報告会報告書

開催日時	令和元年11月16日(土)午後2時00分～4時30分	
開催場所	松阪公民館ホール	
委員会名	文教経済委員会	
出席議員	深田龍委員長 栗谷建一郎副委員長 橘大介 松本一孝 西口真理 中村良子 山本 節	
	司会進行者	深田龍
	報告者	西口真理
	記録者	松本一孝
参加人数	第1部26名 第2部26名	
第2部形式	ワークショップ形式	
主な質疑応答 意見・要望等	別紙のとおり。	

松阪市議会議長 大平 勇 様

令和元年11月19日

議会報告会実施要綱第8条の規定により提出します。

文教経済委員会

委員長 深田 龍

第1部

主な質疑応答・意見等】

問 北部学校給食センターの給食が美味しくないとの声があるが、これに関し、企業努力だけでなく、ふるさと納税などの財源から市の負担も必要ではないか。

答 センターと学校調理場との違いは、衛生面や味の管理であり、今までのような学校独自の個性が出せなくなっている。またベルランチは同じ企業であるが、そういった声は聞こえていない。まだ始まって間もなく、その差異もあるかもしれない。このことに関しては、委員会で状況確認し、改善が必要であれば指摘していく。

問 放課後児童クラブが補助金制度になり、先生との折衝や事務など負担が大きく、色々な問題もあり、精神的負担も大きい。この負担を軽減するために、社会福祉法人に直接委託してもらいたい。また一学区一学童の規制もなくせば民間も参入しやすいのではないか。

答 文教経済委員会の各委員が、保護者代表者会議を傍聴し、現在の状況や意見を認識した。その中で教育委員会が学童クラブを社会福祉法人へ委託していくと応答があったが、各地域での問題もあるので文教経済委員会でこれから実施されるアンケートも参考にし保護者、企業、他の関係者等、多くの意見を調査していきたい。

問 給食が北部学校給食センターに変わり、生徒たちの中で給食に対する感じ方が色々あると思う。保護者からの意見だけでなく、生徒たちにもアンケートなど実施してはどうか。

答 アンケートに関しては、委員会でそれを確認し、教育委員会に対応するよう伝える。

第2部用【テーマ名 こどもの安全教育について～今日の安心、あしたの元気～】

【主な質疑応答・意見等】

分野	問題・課題	対策
防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック塀の倒壊 ・街灯が少ないまたは暗い ・下校時、少人数になる ・不審者などが多い ・防犯対策が整っていない ・スクールサポーターが少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や家庭での教育指導をする ・地域と警察との連携強化をする ・防犯カメラの設置を充実させる ・防災マップの通知等をおこなう ・スクールサポーターを充実させる ・登下校の見守りに企業の参加を促す
通学・交通	<ul style="list-style-type: none"> ・横断歩道や路側帯の欠如 ・グリーンベルトの整備が必要 ・自動車やバイクと児童の接触事故 ・交通標識の整備 ・無謀運転などの危険 ・信号待ち時間が短く全員渡れない ・二列での登下校がある ・歩行者と自転車が同じ動線 ・交差点に信号機がなく危ない ・中高生の自転車運転マナーが悪い ・歩道のないところや狭いところがあり危険 ・雨天に車両と傘の接触がある ・車両が一時停止をしない ・スクールサポーターのなり手がいない 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や家庭での教育指導をする ・地域と警察との連携強化をする ・交通安全を充実させるための予算確保をする ・都市計画の整備をする ・歩行者と自転車の通行を区分する ・国道や県道に関し市独自の予算を作る ・スクールサポーターを充実させる ・無謀運転等の動画記録を警察に提出する

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">SNSの使用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ アプリ等を使って誤情報を拡散した ・ いじめを匿名でできる ・ 制限すると余計見る ・ リアルタイムでのチャットの危険 ・ 犯罪者による接触の危険 ・ いじめの集団化 ・ SNSの危険性を児童が理解していない ・ 保護者が危険性を理解していない ・ オンラインによる環境の変化 ・ こどものSOSに気がつかない ・ チャットでのトラブルがある ・ 犯罪に巻き込まれる ・ 情報に真偽が不明確 ・ 個人情報の流出 ・ 交友関係の悪化 ・ 不正使用による金銭トラブル ・ 目や精神的な健康被害がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無闇にアプリを入れない ・ 自己判断できる年齢まで携帯等を持たせない ・ 携帯やアプリに制限をかける ・ 学校や家庭で教育する ・ 地域で話し合う場を作る ・ 学校や家庭でルールを作る ・ 企業が制限をかける ・ 保護者も児童も正しく理解する ・ 定期的に学校から情報を発信する
---	---	---